

発達障害児（者）への支援に係る実態調査
報告書

平成 29 年 3 月

北九州市保健福祉局障害者支援課

目 次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査結果	3
1 発達障害児者の支援に関する実態調査票	3
2 アセスメントツールの使用等における実態調査のためのアンケート	25
調査票	31
クロス集計表	39

第1章 調査の概要

1 調査の目的

発達障害児（者）の特性を踏まえた包括的な地域ケアの推進にあたり、家庭や支援の場における環境調整、コミュニケーション支援の現状や、当事者・家族と他の職種との支援者間における情報共有の現状を把握し、今後の施策を考える基礎資料とするため、調査を実施した。

2 調査対象

相談機関（30件）、および福祉サービス事業者（1,150件）

3 調査方法

郵送法

- 相談機関に対し、「発達障害児者の支援に関する実態調査票」を郵送。
- 福祉サービス事業者に対し、「発達障害児者の支援に関する実態調査票」、「アセスメントツールの使用等における実態調査のためのアンケート」の2種類の調査票を郵送。

4 調査期間

平成29年1月26日～平成29年2月10日

5 回収結果

	配布数	回収数	回収率
発達障害児者の支援に関する実態調査票	1,180	872	73.9%
アセスメントツールの使用等における実態調査のためのアンケート	1,150	814	70.8%

6 実施体制

調査企画：北九州市保健福祉局障害者支援課

集計・分析：株式会社 北九州経済研究所

7 集計上の注意事項

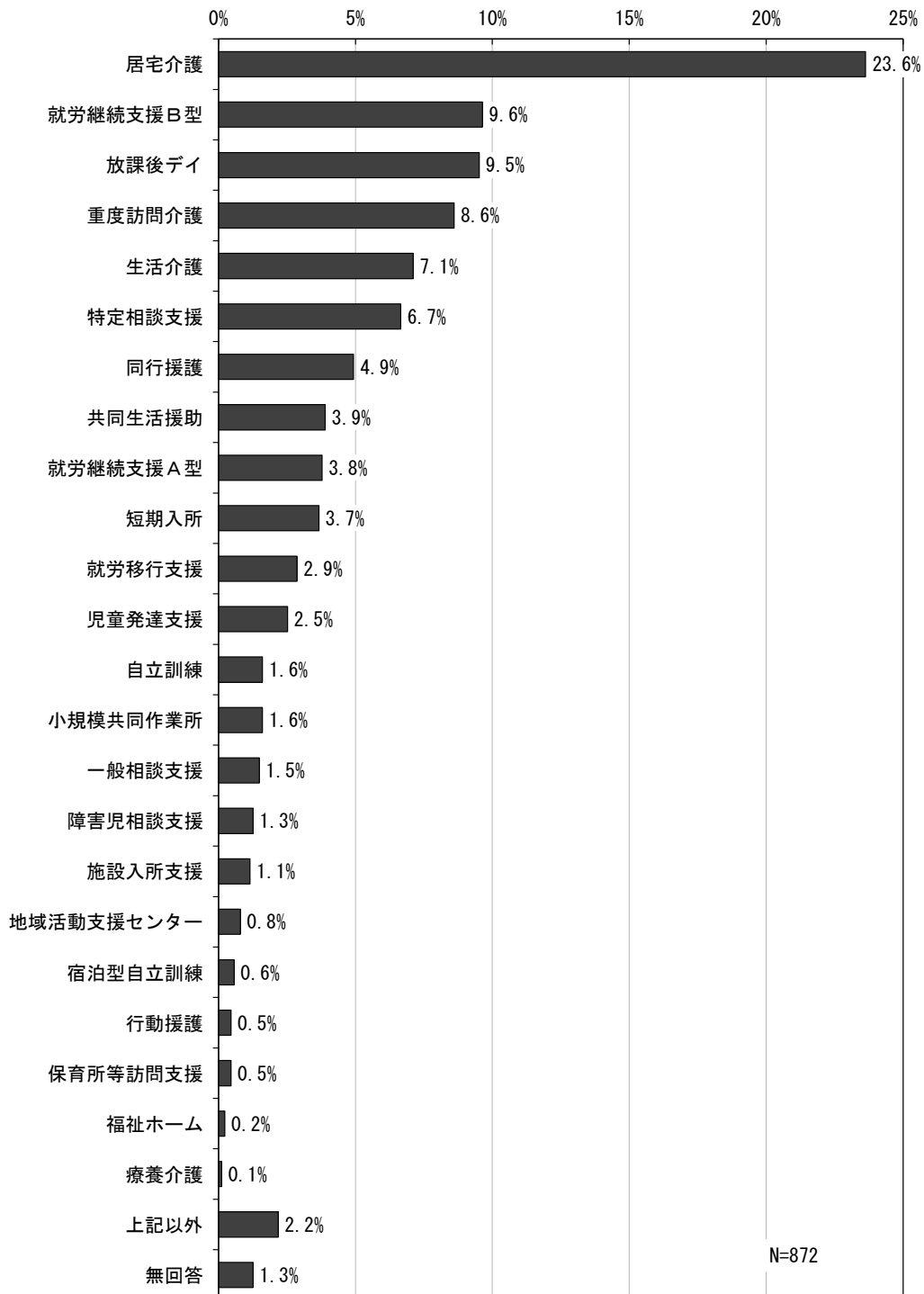
- ・ 図表においては、回答者の数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
また、複数回答の設問については、合計は原則として100%を超える。
- ・ クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
- ・ 事業内容別のクロス集計については、以下のとおり集約した。

集約後	集約前
相談支援事業所	特定相談支援、障害児相談支援、一般相談支援
介護（居宅）系事業所	居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護
介護（施設）系事業所	短期入所、療養介護、生活介護、施設入所支援
訓練系事業所	自立訓練、宿泊型自立訓練、共同生活援助
就労系事業所	就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型
児童系事業所	放課後デイ、児童発達支援、保育所等訪問支援
社会参加系事業所	福祉ホーム、地域活動支援センター、小規模共同作業所
その他	その他

第2章 調査結果

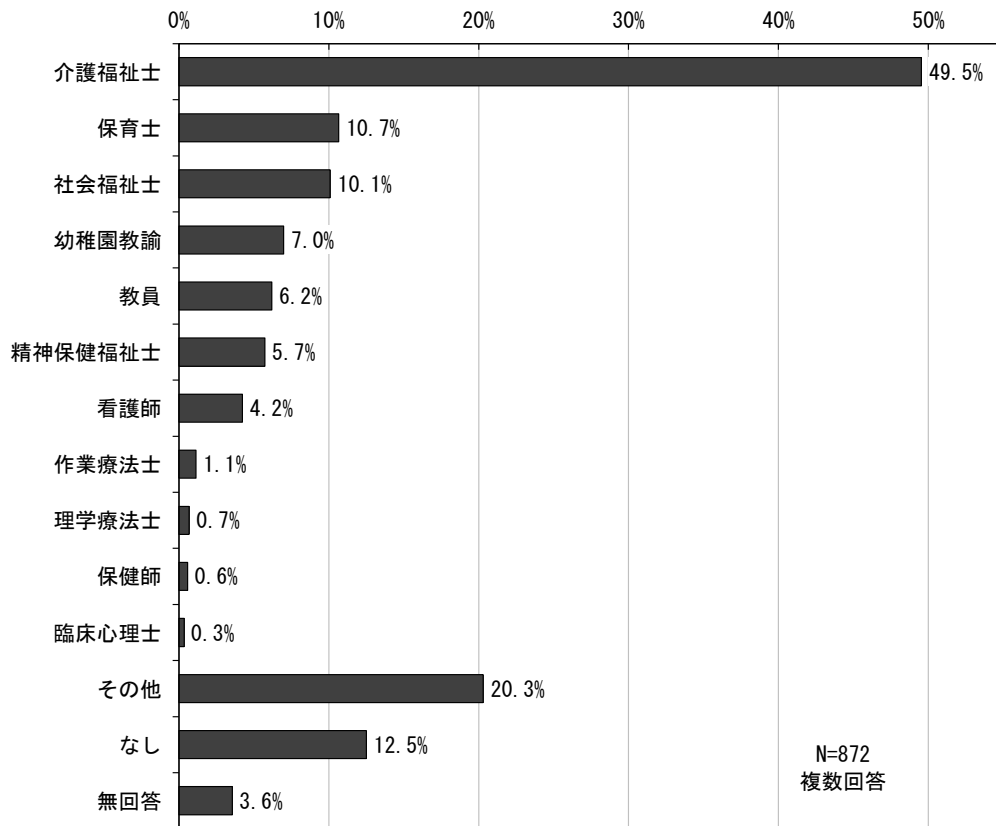
1 発達障害児者の支援に関する実態調査票

【事業所の事業内容】

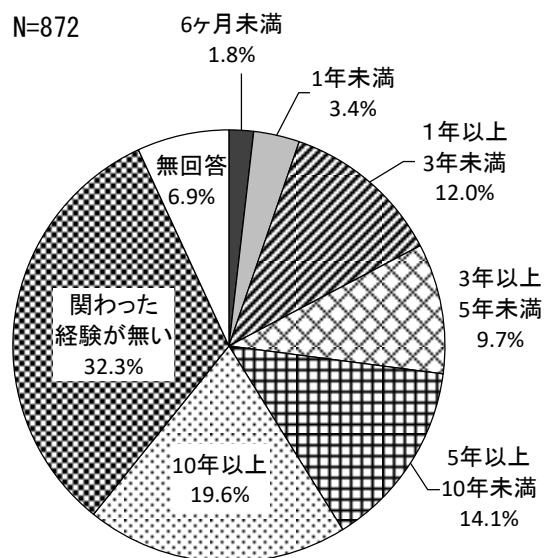


【記入者の属性】

① 保有資格



② 発達障害児者の相談支援にかかわった経験年数

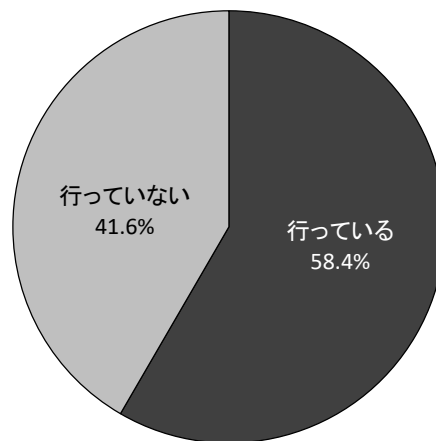


設問 1) あなたの事業所・相談機関では、発達障害児者への支援（相談を含む）を行っていますか。

発達障害児者への支援を「行っている」事業所は 58.4%となっている。

事業内容別にみると、「行っている」の割合は、児童系事業所（93.6%）、相談支援事業所（81.7%）、就労系事業所（80.3%）などが高い。

N=872

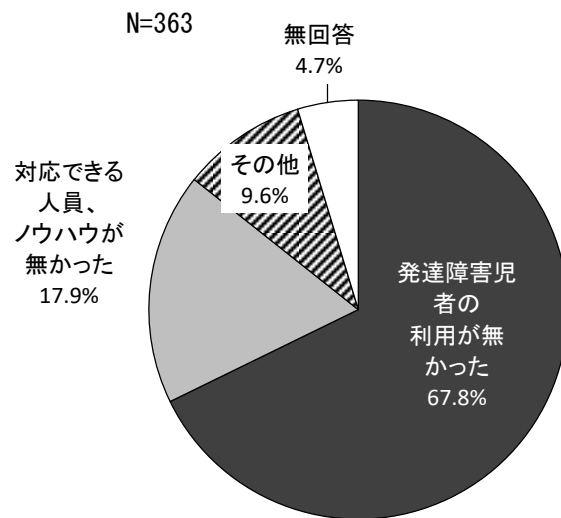


	合計	行っている	行っていない	無回答	
全体	872	509	363	0	
	100.0%	58.4%	41.6%	0.0%	
事業内容	相談支援事業所	82	67	15	0
		100.0%	81.7%	18.3%	0.0%
	介護(居宅)系事業所	328	92	236	0
		100.0%	28.0%	72.0%	0.0%
	介護(施設)系事業所	105	74	31	0
		100.0%	70.5%	29.5%	0.0%
	訓練系事業所	53	33	20	0
		100.0%	62.3%	37.7%	0.0%
	就労系事業所	142	114	28	0
		100.0%	80.3%	19.7%	0.0%
児童系事業所	109	102	7	0	
	100.0%	93.6%	6.4%	0.0%	
社会参加系事業所	23	7	16	0	
	100.0%	30.4%	69.6%	0.0%	
その他	19	15	4	0	
	100.0%	78.9%	21.1%	0.0%	

副問 1) 設問 1) で②を選択された方に、日頃の対応や今後の予定についておたずねします。

(1) 発達障害児者への支援を行っていない理由は何ですか。

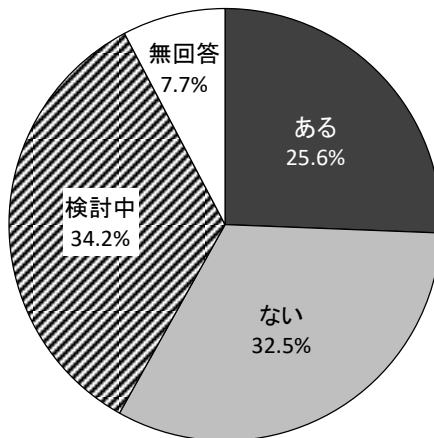
発達障害児者への支援を「行っていない」事業所に対し、発達障害児者への支援を行っていない理由を尋ねたところ、「発達障害児者の利用が無かった」が 67.8%、「対応できる人員、ノウハウが無かった」が 17.9%となっている。



(2) 今後、支援を行う予定はありますか。

発達障害児者への支援を「行っていない」事業所に対し、支援を行う予定があるか尋ねたところ、「検討中」が34.2%で最も多く、次いで「ない」32.5%、「ある」25.6%となっている。

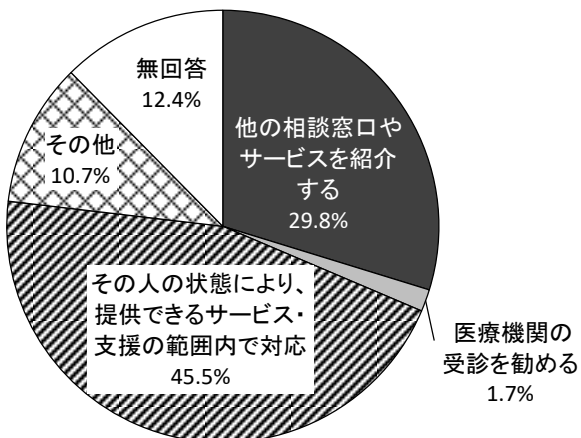
N=363



(3) 発達障害の疑いがある人またはその保護者が来所した場合、どのように対応していますか。

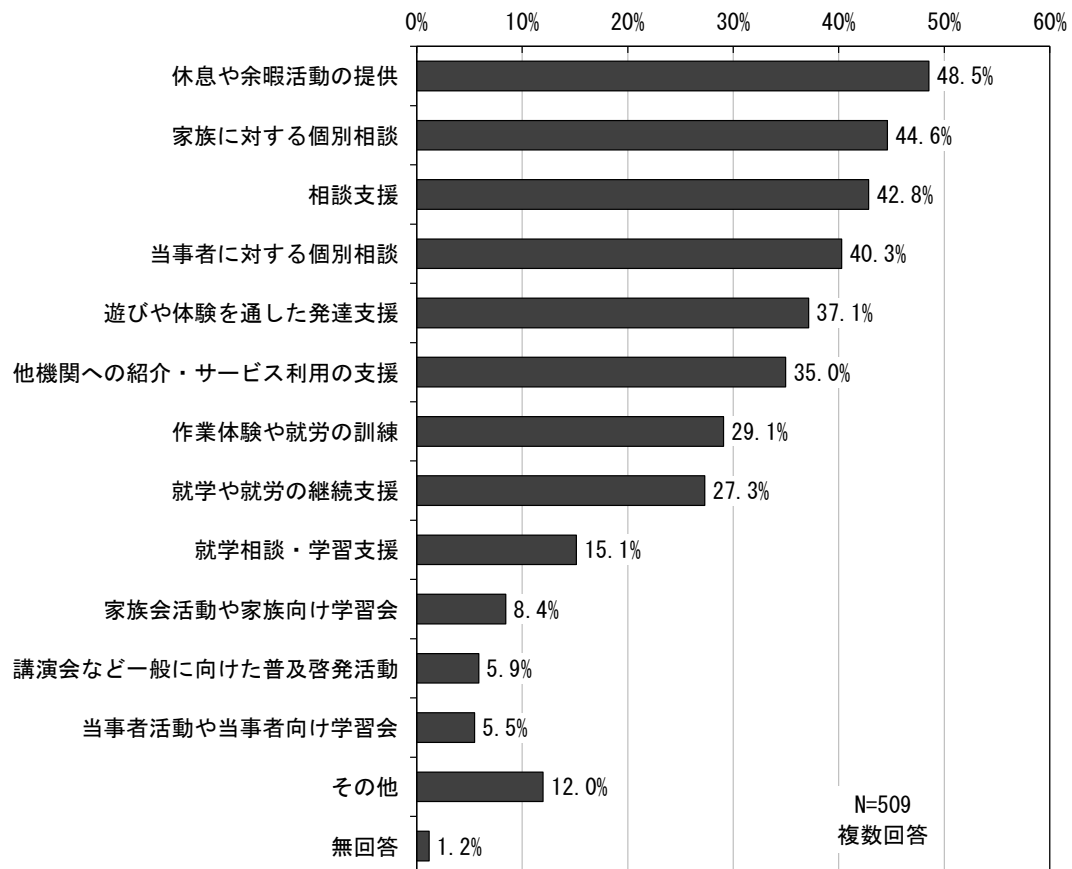
発達障害の疑いがある場合の対応については、「その人の状態により、提供できるサービス・支援の範囲内で対応」が45.5%で最も多く、次いで「他の相談窓口やサービスを紹介する」29.8%となっている。

N=363



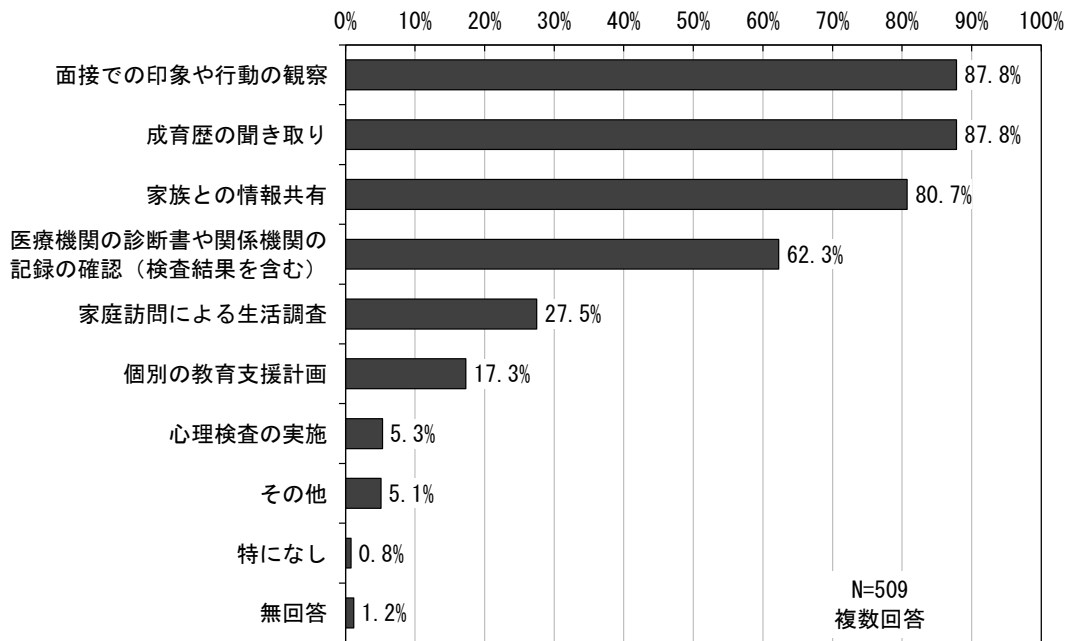
問2) 発達障害児者に対し、どのような支援を行っていますか。(複数回答可)

発達障害児者に対して行っている支援については、「休息や余暇活動の提供」が48.5%で最も多く、次いで「家族に対する個別相談」44.6%、「相談支援」42.8%、「当事者に対する個別相談」40.3%などとなっている。

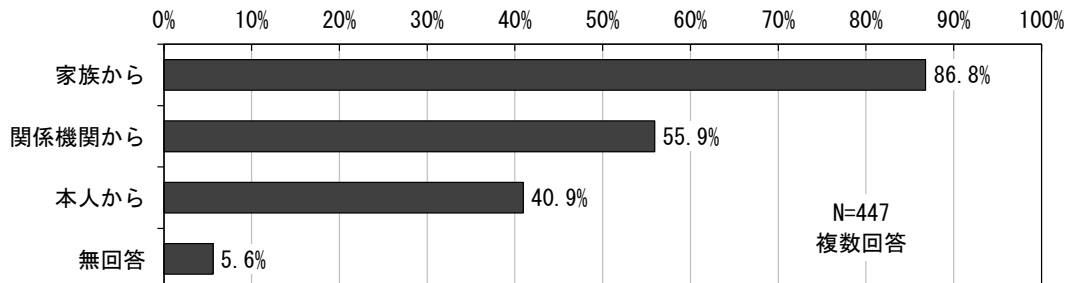


設問3) 支援を行っている発達障害児者の障害特性についてどのように把握していますか。(複数回答可)

障害特性の把握方法については、「面接での印象や行動の観察」と「成育歴の聞き取り」がいずれも87.8%で最も多く、次いで「家族との情報共有」80.7%、「医療機関の診断書や関係機関の記録の確認(検査結果を含む)」62.3%などとなっている。

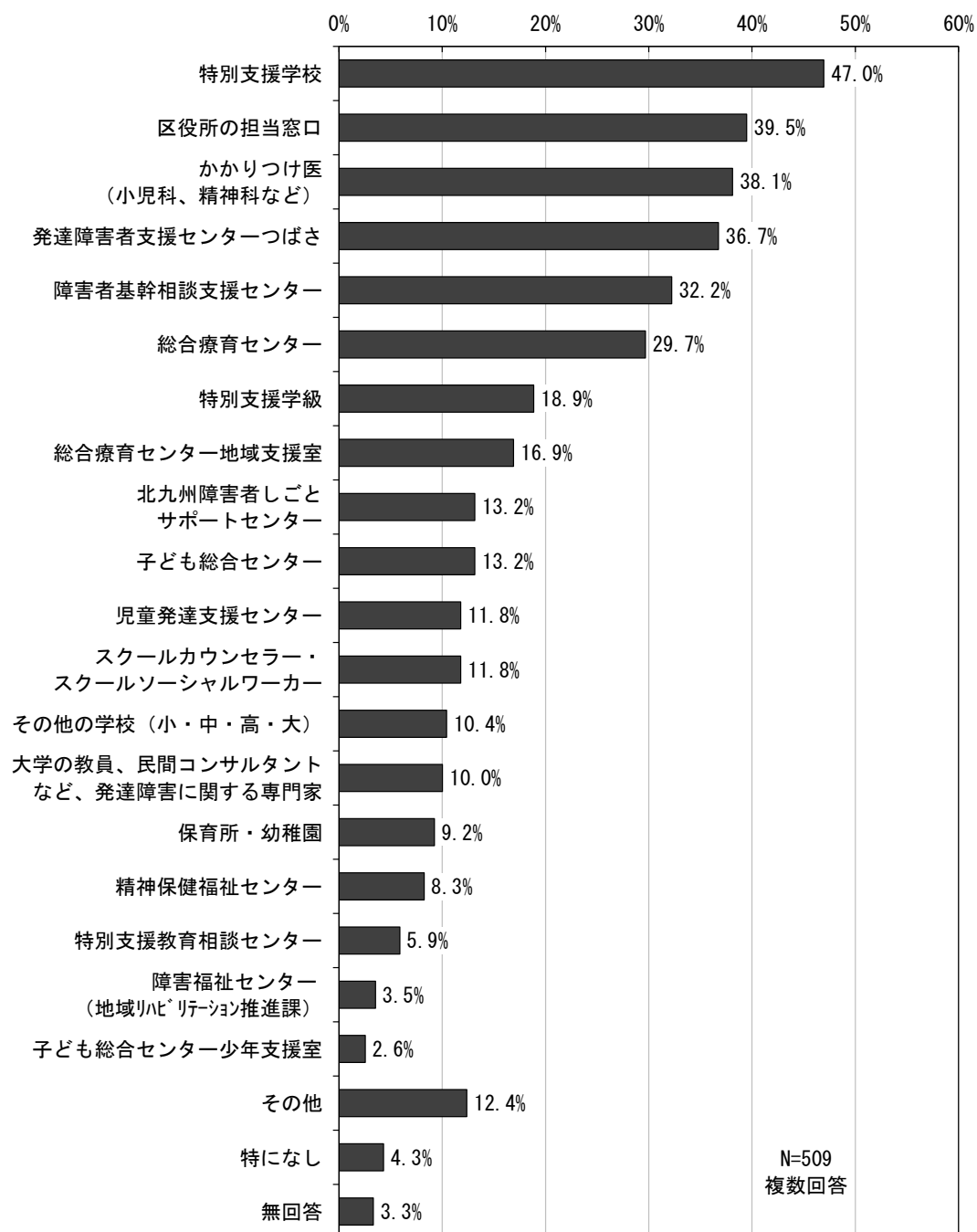


また、成育歴の聞き取り相手については、「家族から」が86.8%で最も多く、次いで「関係機関から」55.9%、「本人から」40.9%となっている。



設問4) 発達障害児者を支援するため、どのような機関と連携していますか。(複数回答可)

連携している機関については、「特別支援学校」が47.0%で最も多く、次いで「区役所の担当窓口」39.5%、「かかりつけ医（小児科、精神科など）」38.1%、「発達障害者支援センターつばさ」36.7%、「障害者基幹相談支援センター」32.2%、「総合療育センター」29.7%などとなっている。



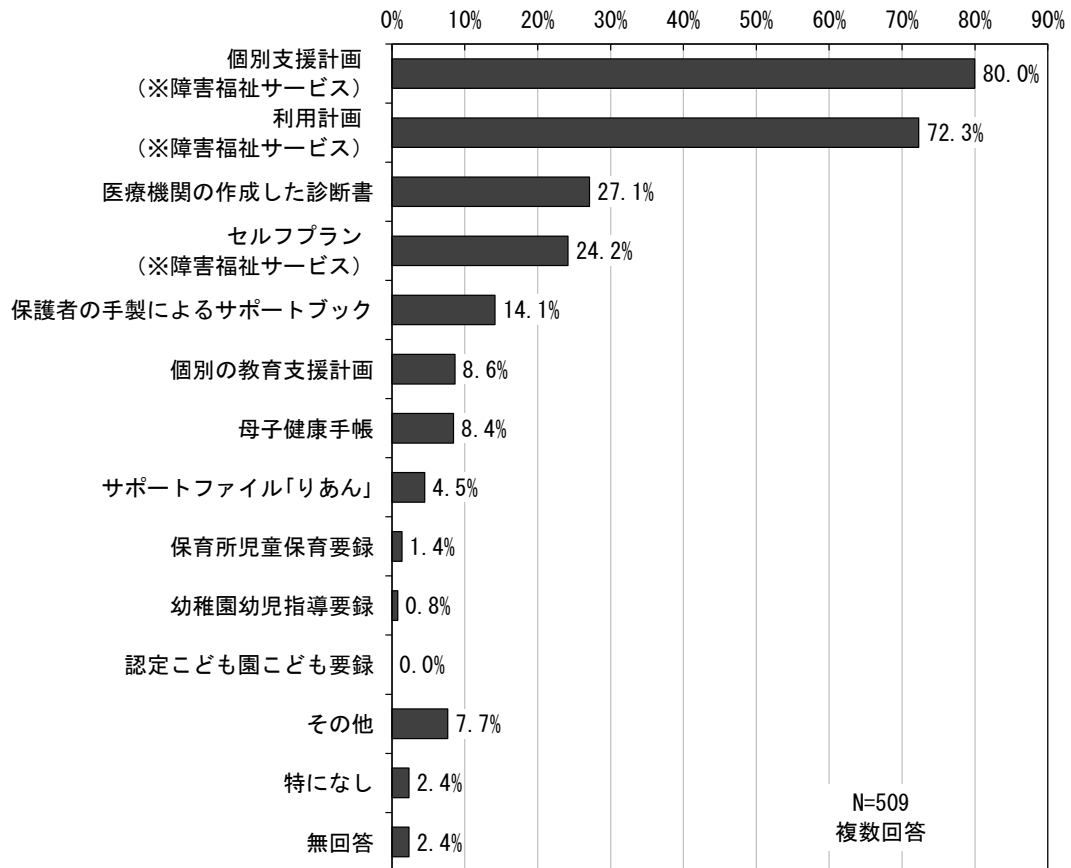
事業内容別にみると、介護（施設）系事業所、児童系事業所では、「特別支援学校」の割合が最も高く、相談支援事業所、介護（居宅）系事業所、社会参加系事業所では、「区役所の担当窓口」が最も高い。訓練系事業所では「かかりつけ医」が最も高く、就労系事業所では「発達障害者支援センターつばさ」が最も高くなっている。

	合計	総合療育センター	かかりつけ医 (小児科、精神科など)	総合療育センター地域支援室	児童発達支援センター	発達障害者支援センターつばさ	特別支援教育相談センター	北九州障害者しごとサポートセンター	障害者基幹相談支援センター	子ども総合センター	子ども総合センター 少年支援室	精神保健福祉センター	障害福祉センター (地域リハビリテーション推進課)	
全体	509 100.0%	151 29.7%	194 38.1%	86 16.9%	60 11.8%	187 36.7%	30 5.9%	67 13.2%	164 32.2%	67 13.2%	13 2.6%	42 8.3%	18 3.5%	
事業内容	相談支援事業所	67 100.0%	25 37.3%	33 49.3%	17 25.4%	13 19.4%	31 46.3%	2 3.0%	10 14.9%	24 35.8%	13 19.4%	3 4.5%	5 7.5%	6 9.0%
	介護(居宅)系事業所	92 100.0%	19 20.7%	23 25.0%	8 8.7%	4 4.3%	10 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	25 27.2%	8 8.7%	1 1.1%	14 15.2%	3 3.3%
	介護(施設)系事業所	74 100.0%	18 24.3%	34 45.9%	7 9.5%	5 6.8%	26 35.1%	3 4.1%	4 5.4%	27 36.5%	6 8.1%	2 2.7%	5 6.8%	1 1.4%
	訓練系事業所	33 100.0%	8 24.2%	21 63.6%	1 3.0%	1 3.0%	14 42.4%	0 0.0%	7 21.2%	12 36.4%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.1%	0 0.0%
	就労系事業所	114 100.0%	12 10.5%	45 39.5%	6 5.3%	0 0.0%	61 53.5%	1 0.9%	33 28.9%	42 36.8%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.5%	2 1.8%
	児童系事業所	102 100.0%	52 51.0%	24 23.5%	37 36.3%	29 28.4%	29 28.4%	13 12.7%	3 2.9%	20 19.6%	23 22.5%	2 2.0%	5 4.9%	0 0.0%
	社会参加系事業所	7 100.0%	3 42.9%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	5 71.4%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	3 42.9%	2 28.6%
	その他	15 100.0%	11 73.3%	9 60.0%	7 46.7%	6 40.0%	9 60.0%	9 60.0%	8 53.3%	9 60.0%	13 86.7%	5 33.3%	3 20.0%	4 26.7%

	合計	区役所の担当窓口	保育所・幼稚園	特別支援学校	特別支援学級	その他の学校(小・中・高・大)	大学の教員、民間コンサルタントなど、発達障害に関する専門家	スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー	その他	特になし	無回答	
全体	509 100.0%	201 39.5%	47 9.2%	239 47.0%	96 18.9%	53 10.4%	51 10.0%	60 11.8%	63 12.4%	22 4.3%	17 3.3%	
事業内容	相談支援事業所	67 100.0%	45 67.2%	6 9.0%	39 58.2%	15 22.4%	7 10.4%	3 4.5%	14 20.9%	3 4.5%	1 1.5%	
	介護(居宅)系事業所	92 100.0%	35 38.0%	3 3.3%	16 17.4%	2 2.2%	5 5.4%	0 0.0%	2 2.2%	23 25.0%	4 4.3%	9 9.8%
	介護(施設)系事業所	74 100.0%	21 28.4%	4 5.4%	41 55.4%	7 9.5%	0 0.0%	8 10.8%	6 8.1%	10 13.5%	4 5.4%	0 0.0%
	訓練系事業所	33 100.0%	14 42.4%	0 0.0%	12 36.4%	0 0.0%	2 6.1%	2 6.1%	1 3.0%	4 12.1%	1 3.0%	1 3.0%
	就労系事業所	114 100.0%	35 30.7%	0 0.0%	45 39.5%	6 5.3%	3 2.6%	6 5.3%	7 6.1%	13 11.4%	8 7.0%	3 2.6%
	児童系事業所	102 100.0%	36 35.3%	27 26.5%	73 71.6%	57 55.9%	27 26.5%	19 18.6%	16 15.7%	7 6.9%	2 2.0%	2 2.0%
	社会参加系事業所	7 100.0%	4 57.1%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%
	その他	15 100.0%	9 60.0%	5 33.3%	9 60.0%	8 53.3%	8 53.3%	8 53.3%	13 86.7%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%

設問5) 関係機関や家族と情報を共有するために、何を活用していますか。(複数回答可)

関係機関や家族と情報を共有するために利用しているものについては、「個別支援計画」が80.0%で最も多く、次いで「利用計画」72.3%、「医療機関の作成した診断書」27.1%、「セルフプラン」24.2%、「保護者の手製によるサポートブック」14.1%などとなっている。

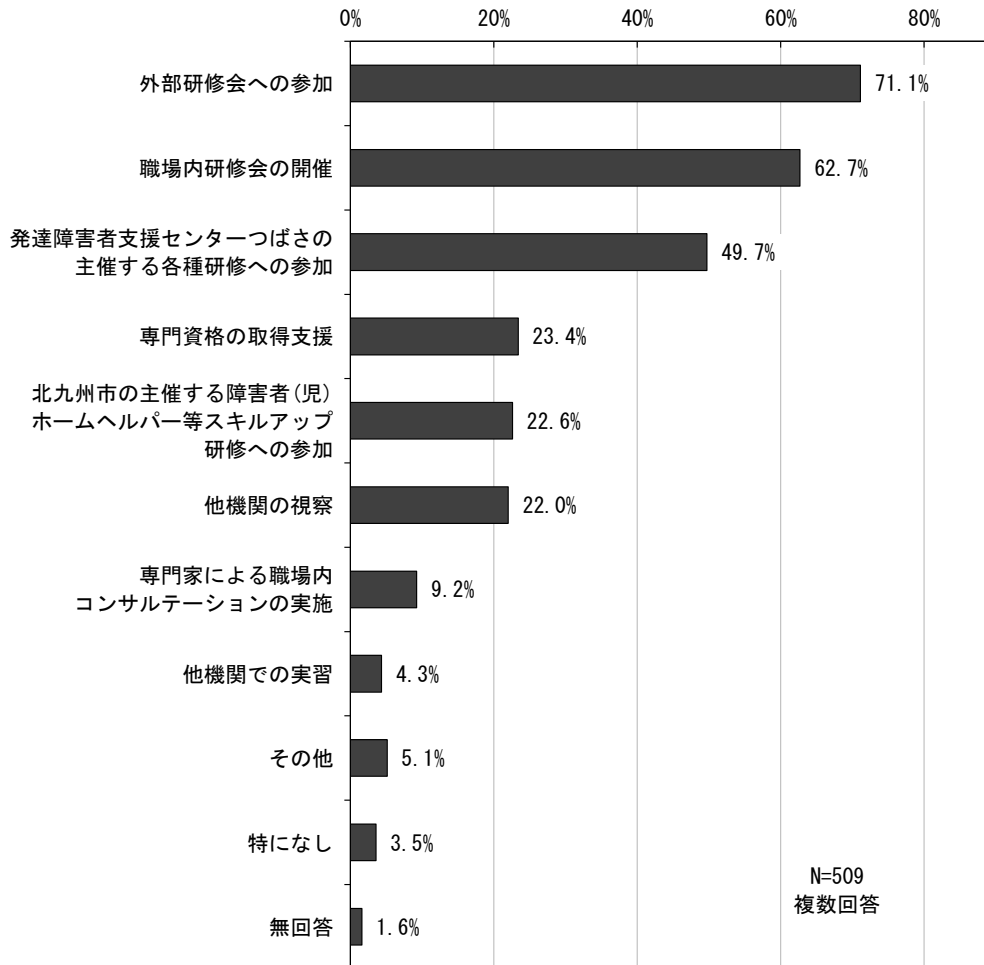


事業内容別にみても、「個別支援計画」と「利用計画」の2つが突出して高い傾向はおおむね共通している。

	合計	母子健康手帳	保育所児童保育要録	幼稚園幼児指導要録	個別の教育支援計画	サポートファイル「りあん」	保護者の手製によるサポートブック	医療機関の作成した診断書	利用計画 (※障害福祉サービス)	セルフプラン (※障害福祉サービス)	個別支援計画 (※障害福祉サービス)	認定こども園こども要録	その他	特になし	無回答	
全体	509 100.0%	43 8.4%	7 1.4%	4 0.8%	44 8.6%	23 4.5%	72 14.1%	138 27.1%	368 72.3%	123 24.2%	407 80.0%	0 0.0%	39 7.7%	12 2.4%	12 2.4%	
事業内容	相談支援事業所	67 100.0%	11 16.4%	0 0.0%	1 1.5%	6 9.0%	3 4.5%	15 22.4%	26 38.8%	48 71.6%	5 7.5%	44 65.7%	0 0.0%	3 4.5%	3 4.5%	2 3.0%
	介護(居宅)系事業所	92 100.0%	3 3.3%	2 2.2%	0 0.0%	1 1.1%	0 0.0%	6 6.5%	10 10.9%	68 73.9%	33 35.9%	64 69.6%	0 0.0%	3 3.3%	1 1.1%	4 4.3%
	介護(施設)系事業所	74 100.0%	3 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	7 9.5%	2 2.7%	13 17.6%	20 27.0%	61 82.4%	14 18.9%	62 83.8%	0 0.0%	8 10.8%	1 1.4%	1 1.4%
	訓練系事業所	33 100.0%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.0%	1 3.0%	2 6.1%	12 36.4%	26 78.8%	8 24.2%	31 93.9%	0 0.0%	3 9.1%	1 3.0%	0 0.0%
	就労系事業所	114 100.0%	2 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	8 7.0%	1 0.9%	5 4.4%	34 29.8%	86 75.4%	26 22.8%	101 88.6%	0 0.0%	7 6.1%	2 1.8%	2 1.8%
	児童系事業所	102 100.0%	18 17.6%	4 3.9%	1 1.0%	14 13.7%	11 10.8%	25 24.5%	22 21.6%	70 68.6%	31 30.4%	92 90.2%	0 0.0%	13 12.7%	0 0.0%	2 2.0%
	社会参加系事業所	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	3 42.9%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	1 14.3%
	その他	15 100.0%	4 26.7%	1 6.7%	2 13.3%	5 33.3%	4 26.7%	4 26.7%	9 60.0%	5 33.3%	4 26.7%	5 33.3%	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%	0 0.0%

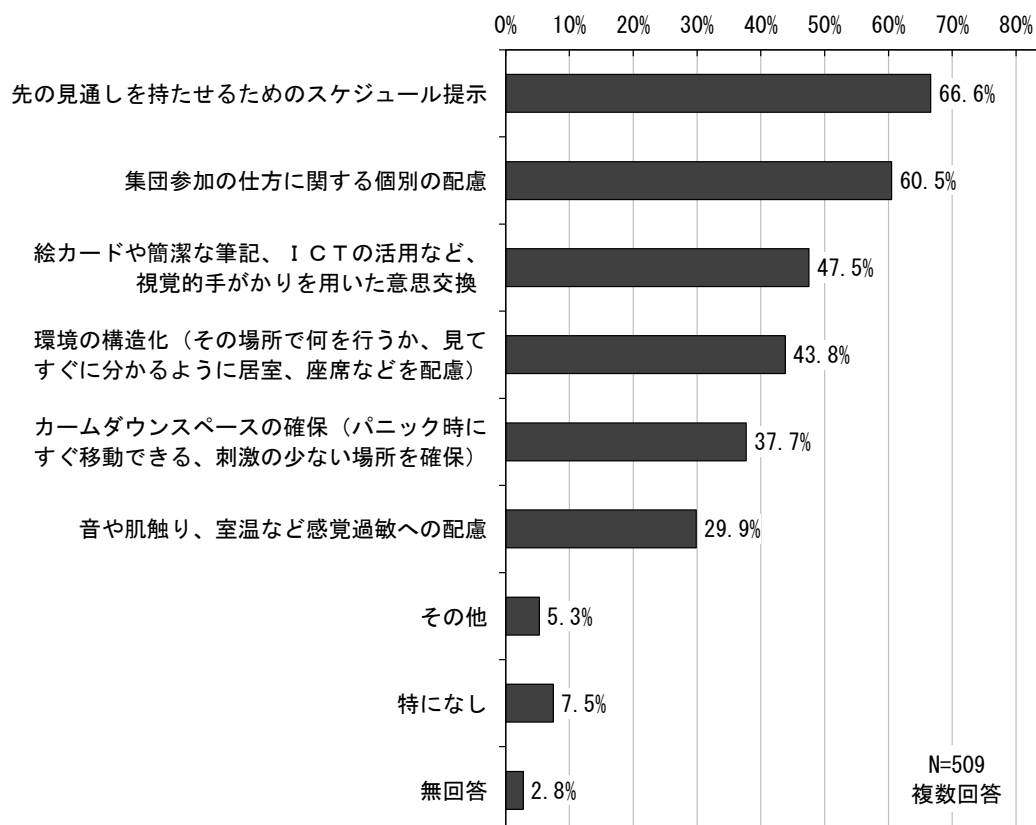
設問6) 発達障害児者を支援するため、職員向けにどのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)

発達障害児者を支援するために行っている職員向けの取り組みについては、「外部研修会への参加」が71.1%で最も多く、次いで「職場内研修会の開催」62.7%、「発達障害者支援センターつばさの主催する各種研修への参加」49.7%などとなっている。



設問7) 発達障害児者に対し、どのような配慮を行っていますか。(複数回答可)

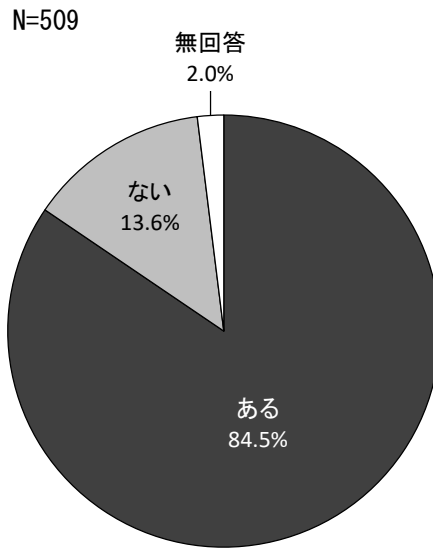
発達障害児者に対して行っている配慮については、「先の見通しを持たせるためのスケジュール提示」が66.6%で最も多く、次いで「集団参加の仕方に関する個別の配慮」60.5%、「絵カードや簡潔な筆記、ICTの活用など、視覚的手がかりを用いた意思交換」47.5%、「環境の構造化」43.8%などとなっている。



設問 8) 発達障害児者を支援する上で、困っていることがありますか。

発達障害児者を支援する上で困っていることがあるか尋ねたところ、「ある」が 84.5%を占めている。

事業内容別にみても、いずれも「ある」が 8 割を超えている。



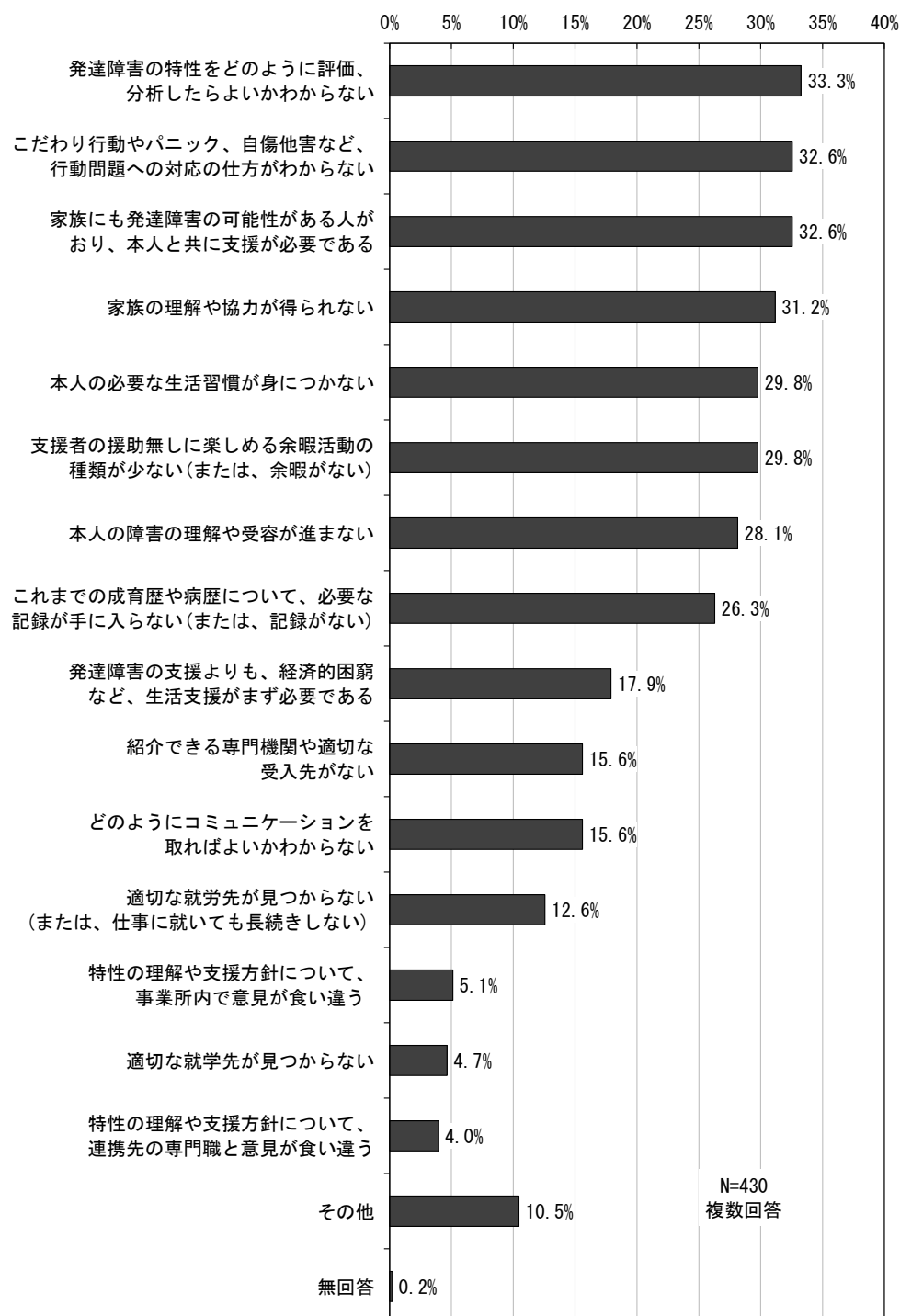
	合計	ある	ない	無回答	
全体	509	430	69	10	
	100.0%	84.5%	13.6%	2.0%	
事業内容	相談支援事業所	67	59	7	1
		100.0%	88.1%	10.4%	1.5%
	介護(居宅)系事業所	92	74	14	4
		100.0%	80.4%	15.2%	4.3%
	介護(施設)系事業所	74	66	8	0
		100.0%	89.2%	10.8%	0.0%
	訓練系事業所	33	28	4	1
		100.0%	84.8%	12.1%	3.0%
	就労系事業所	114	95	17	2
		100.0%	83.3%	14.9%	1.8%
児童系事業所	102	85	15	2	
	100.0%	83.3%	14.7%	2.0%	
社会参加系事業所	7	6	1	0	
	100.0%	85.7%	14.3%	0.0%	
その他	15	14	1	0	
	100.0%	93.3%	6.7%	0.0%	

これを設問6の回答別にみると、「つばさ」の主催する研修に参加している事業所では、「ある」の割合が89.7%と、参加していない事業所（81.0%）に比べ高くなっている。

		合計	ある	ない	無回答
全体		509 100.0%	430 84.5%	69 13.6%	10 2.0%
つばさの主催する各種研修への参加	参加している	253 100.0%	227 89.7%	24 9.5%	2 0.8%
	参加していない	248 100.0%	201 81.0%	45 18.1%	2 0.8%

副問2) どのようなことで困っていますか。(複数回答可)

どのようなことで困っているか尋ねたところ、「発達障害の特性をどのように評価、分析したらよいかわからない」が33.3%で最も多く、次いで「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」、「家族にも発達障害の可能性のある人がおり、本人と共に支援が必要である」がいずれも32.6%、「家族の理解や協力が得られない」31.2%などとなっている。



副問3の回答別にみると、「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」の割合は、「応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減」を行っている事業所では23.4%と、行っていない事業所（30.2%）に比べ低くなっている。

		合計	問題への対応の仕方がわからない	こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題	左記以外	無回答
全体		430 100.0%	140 32.6%	289 67.2%	1 0.2%	
応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減	行っている	47 100.0%	11 23.4%	36 76.6%	0 0.0%	
	行っていない	182 100.0%	55 30.2%	126 69.2%	1 0.5%	

また、「本人の必要な生活習慣が身につかない」の割合は、「ライフスキルトレーニング」を行っている事業所では32.0%、行っていない事業所では31.3%となっており、顕著な差はみられない。

		合計	本人の必要な生活習慣が身につかない	左記以外	無回答
全体		430 100.0%	128 29.8%	301 70.0%	1 0.2%
「ライフスキルトレーニング」	行っている	50 100.0%	16 32.0%	34 68.0%	0 0.0%
	行っていない	179 100.0%	56 31.3%	122 68.2%	1 0.6%

「応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減」を行っており、かつ「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」と回答した事業所について、設問6の回答結果をみると、「つばさ」の主催する研修に参加している割合は90.9%、職場内コンサルテーションを実施している割合は72.7%となっている。

「応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減」を行っており、かつ「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」と回答していない事業所について、設問6の回答結果をみると、「つばさ」の主催する研修に参加している割合は77.8%、職場内コンサルテーションを実施している割合は47.2%となっている。

「応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減」を行っておらず、かつ「こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない」と回答した事業所について、設問6の回答結果をみると、「つばさ」の主催する研修に参加している割合は65.5%、職場内コンサルテーションを実施している割合は7.3%となっている。

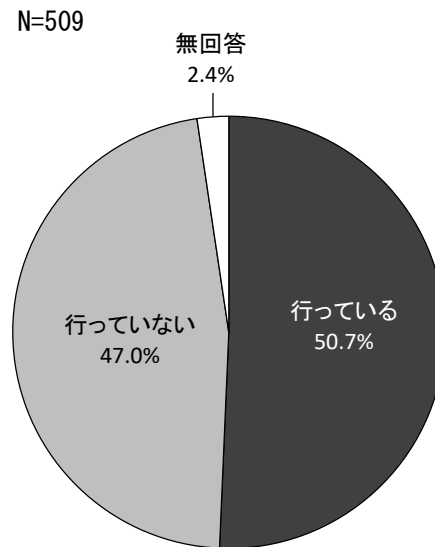
		つばさの主催する各種研修への参加			
		合計	参加している	参加していない	無回答
全体		509 100.0%	253 49.7%	248 48.7%	8 1.6%
応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減を行っている	こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない	11 100.0%	10 90.9%	1 9.1%	0 0.0%
	上記以外	36 100.0%	28 77.8%	8 22.2%	0 0.0%
応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減を行っていない	こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない	55 100.0%	36 65.5%	19 34.5%	0 0.0%
	上記以外	126 100.0%	75 59.5%	51 40.5%	0 0.0%

		専門家による職場内コンサルテーションの実施			
		合計	実施している	実施していない	無回答
全体		509 100.0%	47 9.2%	454 89.2%	8 1.6%
応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減を行っている	こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない	11 100.0%	8 72.7%	3 27.3%	0 0.0%
	上記以外	36 100.0%	17 47.2%	19 52.8%	0 0.0%
応用行動分析（ABA）を用いた行動問題の低減を行っていない	こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない	55 100.0%	4 7.3%	51 92.7%	0 0.0%
	上記以外	126 100.0%	8 6.3%	118 93.7%	0 0.0%

設問9) 発達障害の特性を踏まえた専門的な支援プログラムを行っていますか。

発達障害の特性を踏まえた専門的な支援プログラムを「行っている」事業所は50.7%となっている。

事業内容別にみると、「行っている」の割合は、児童系事業所(79.4%)、介護(施設)系事業所(68.9%)、その他(66.7%)、訓練系事業所(63.6%)などが高い。



	合計	行っている	行っていない	無回答	
全体	509 100.0%	258 50.7%	239 47.0%	12 2.4%	
事業内容	相談支援事業所	67 100.0%	18 26.9%	46 68.7%	3 4.5%
	介護(居宅)系事業所	92 100.0%	20 21.7%	69 75.0%	3 3.3%
	介護(施設)系事業所	74 100.0%	51 68.9%	23 31.1%	0 0.0%
	訓練系事業所	33 100.0%	21 63.6%	11 33.3%	1 3.0%
	就労系事業所	114 100.0%	53 46.5%	59 51.8%	2 1.8%
	児童系事業所	102 100.0%	81 79.4%	19 18.6%	2 2.0%
	社会参加系事業所	7 100.0%	1 14.3%	6 85.7%	0 0.0%
	その他	15 100.0%	10 66.7%	5 33.3%	0 0.0%

これを設問8の回答別にみると、発達障害児者を支援する上で困っていることが「ある」と回答した事業所では、「行っている」の割合が53.3%と、困っていることが「ない」事業所（39.1%）に比べ高くなっている。

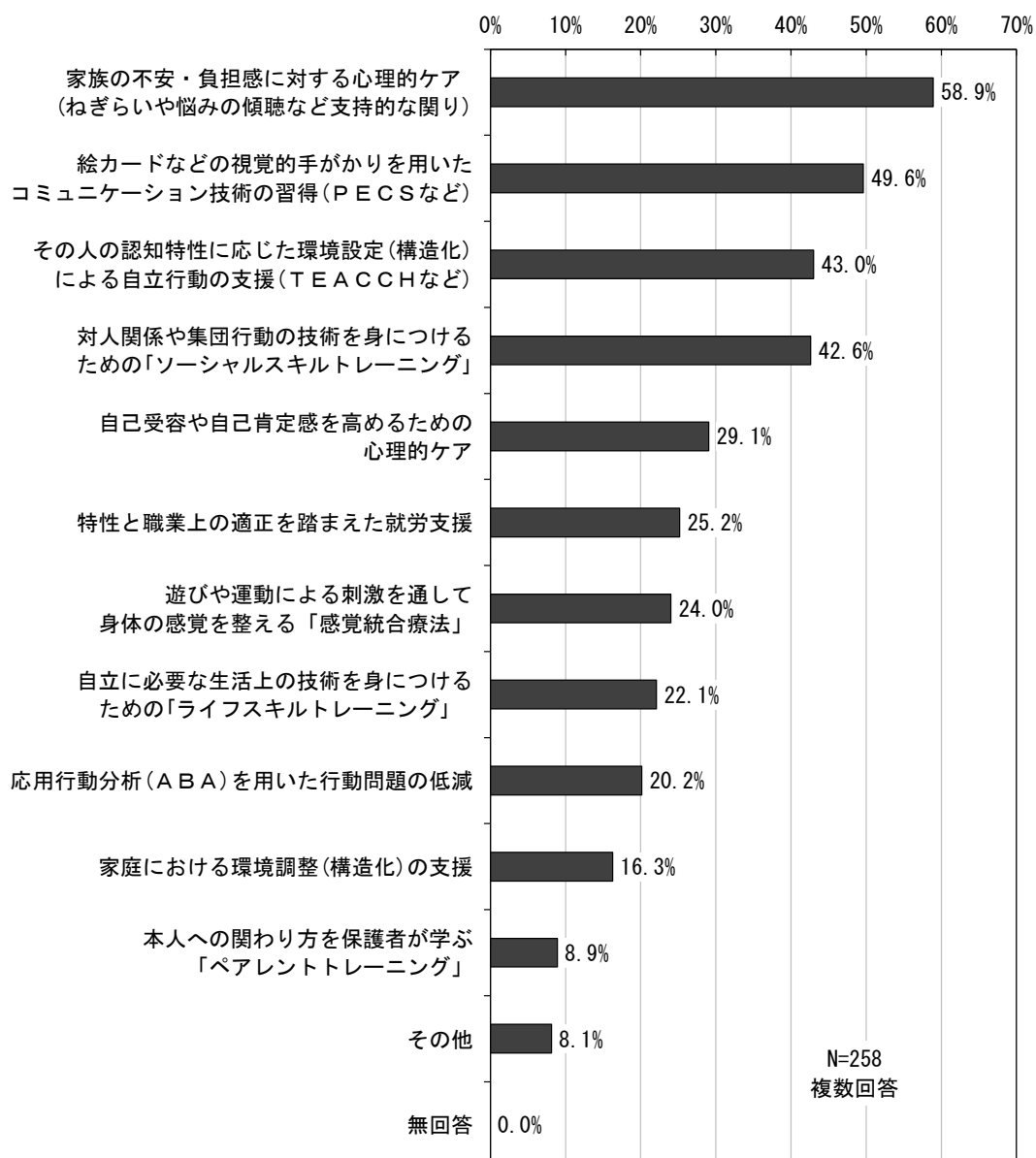
		合計	行っている	行っていない	無回答
全体		509 100.0%	258 50.7%	239 47.0%	12 2.4%
支援する上で困っている ことの有無	ある	430 100.0%	229 53.3%	192 44.7%	9 2.1%
	ない	69 100.0%	27 39.1%	42 60.9%	0 0.0%

また、困っていることが「ある」と回答し、かつ専門的な支援プログラムを「行っていない」と回答した事業所について、設問6の回答結果をみると、「つばさ」の主催する研修に参加している事業所の割合は37.5%と、全体の割合（49.7%）に比べ低くなっている。

「つばさ」の主催する研修に参加している	72	37.5%
「つばさ」の主催する研修に参加していない	118	61.5%
無回答	2	1.0%
全体	192	100.0%

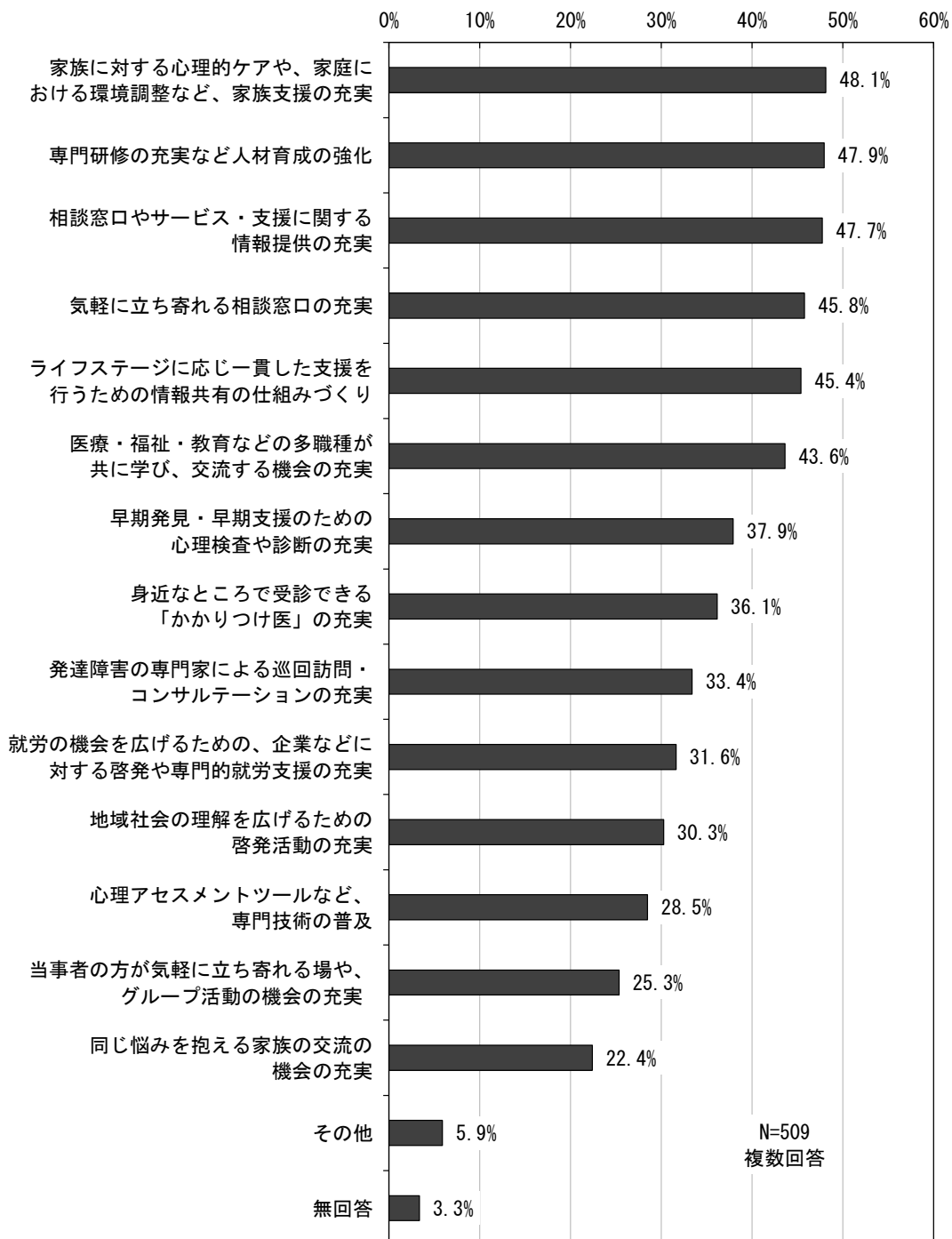
副問3) どのような支援プログラムや療法を活用していますか。(複数回答可)

発達障害の特性を踏まえた専門的な支援プログラムを「行っている」と回答した事業所に対し、支援プログラムや療法の内容について尋ねたところ、「家族の不安・負担感に対する心理的ケア(ねぎらいや悩みの傾聴など支持的な関り)」が58.9%で最も高く、次いで「絵カードなどの視覚的手がかりを用いたコミュニケーション技術の習得(PECSなど)」49.6%、「その人の認知特性に応じた環境設定(構造化)による自立行動の支援(TEACCHなど)」43.0%、「対人関係や集団行動の技術を身につけるための『ソーシャルスキルトレーニング』」42.6%などとなっている。



設問 10) 発達障害児者を支援するために、今後どのようなことが必要と思いますか。(複数回答可)

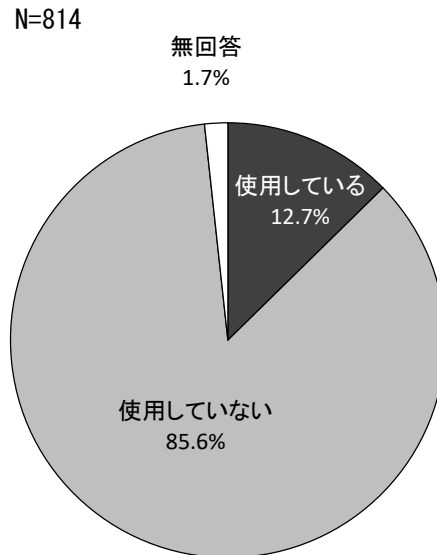
発達障害児者を支援するために今後必要なことについては、「家族に対する心理的ケアや、家庭における環境調整など、家族支援の充実」が 48.1%で最も高く、次いで「専門研修の充実など人材育成の強化」47.9%、「相談窓口やサービス・支援に関する情報提供の充実」47.7%、「気軽に立ち寄れる相談窓口の充実」45.8%、「ライフステージに応じ一貫した支援を行うための情報共有の仕組みづくり」45.4%などとなっている。



2 アセスメントツールの使用等における実態調査のためのアンケート

(1) アセスメントツールの使用の有無

アセスメントツールを「使用している」事業所は12.7%となっている。



① 知能検査・発達検査

知能検査・発達検査については、「遠城寺式乳幼児発達検査」が29事業所で最も多く、次いで「WISC（学齢期）」が27事業所、「ビネー検査」が19事業所、「WAIS（成人期）」が14事業所などとなっている。

アセスメントツール	時々使用している	よく使用している	合計
WISC（学齢期）	20	7	27
WAIS（成人期）	13	1	14
ビネー検査	9	10	19
K式発達検査	7	2	9
K-ABC	9	0	9
DN-CAS	6	0	6
遠城寺式乳幼児発達検査	13	16	29
ポーターズプログラム	6	6	12

N=103
複数回答

② 適応行動（生活能力）のアセスメント

適応行動（生活能力）のアセスメントについては、「S-M社会生活能力検査」が16事業所で最も多く、次いで「Vine land適応行動尺度Ⅱ」が9事業所、「ASA旭出式社会適応スキル検査」が1事業所となっている。

アセスメントツール	時々使用している	よく使用している	合計
Vine land適応行動尺度Ⅱ	8	1	9
S-M社会生活能力検査	9	7	16
ASA旭出式社会適応スキル検査	1	0	1

N=103
複数回答

③ 情緒と行動のアセスメント

情緒と行動のアセスメントについては、「異常行動チェックリスト日本語版ABC-J」と「日本語版感覚プロフィール」がいずれも1事業所となっている。

アセスメントツール	時々使用している	よく使用している	合計
異常行動チェックリスト日本語版ABC-J	1	0	1
日本語版感覚プロフィール	1	0	1

N=103
複数回答

④ 自閉症スペクトラムのアセスメント

自閉症スペクトラムのアセスメントについては、「CARS」が11事業所で最も多く、次いで「PEP-3」が8事業所、「PARS」と「TTAP」がいずれも6事業所などとなっている。

アセスメントツール	時々使用している	よく使用している	合計
M-CHAT	1	0	1
PARS	5	1	6
CARS	11	0	11
ADOS	0	0	0
AQテスト	4	0	4
PEP-3	8	0	8
TTAP	6	0	6
ADI-R	0	0	0

N=103
複数回答

⑤ その他のアセスメント

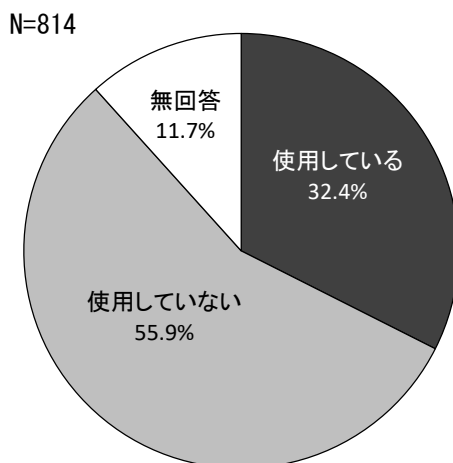
その他のアセスメントについては、「PVT-R 絵画語彙検査」が9事業所で最も多く、次いで「言語学習能力検査ITPA」が5事業所、「LDI-R」と「日本版 感覚統合検査JPAN」がいずれも3事業所などとなっている。

アセスメントツール	時々使用している	よく使用している	合計
ADHD-RS	1	0	1
CAARS	0	0	0
LDI-R	2	1	3
全国標準学力検査CRT	0	2	2
音読検査	1	1	2
言語学習能力検査ITPA	5	0	5
PVT-R 絵画語彙検査	4	5	9
ミラー幼児発達スクリーニング検査JMAP	0	0	0
日本版感覚統合検査JPAN	3	0	3

N=103
複数回答

(2) スキルや能力の把握のためのチェックリストの使用

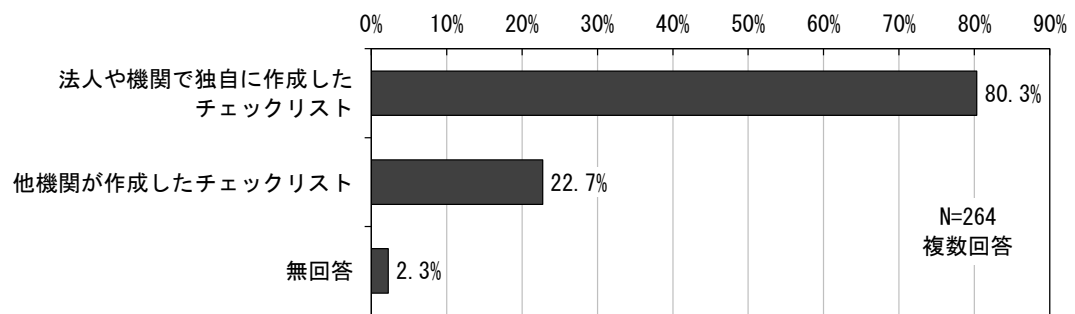
スキルや能力の把握のためにチェックリストを「使用している」事業所は、32.4%となっている。



これをアセスメントツールの使用の有無別にみると、アセスメントツールを使用している事業所では、チェックリストを使用している割合が48.5%と、アセスメントツールを使用していない事業所（29.4%）に比べ高くなっている。

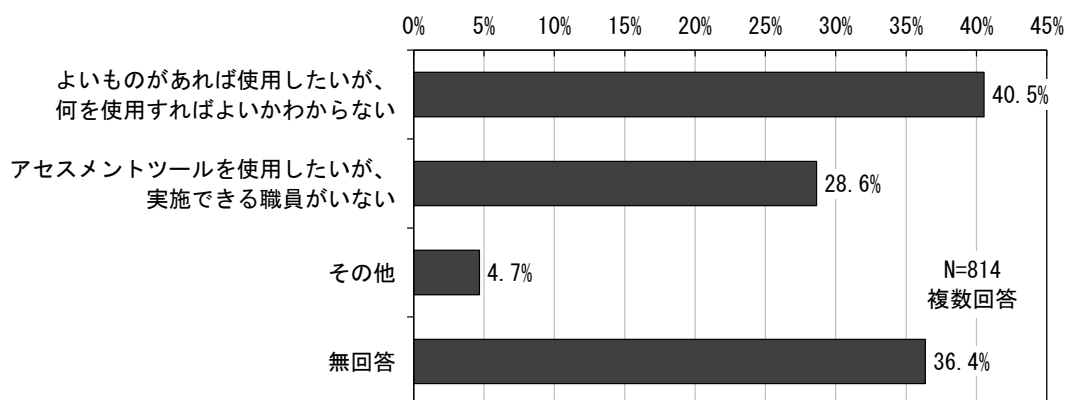
		合計	使用している チェックリストを	使用していない チェックリストを	無回答
全体		814 100.0%	264 32.4%	455 55.9%	95 11.7%
アセスメントツールの使用	使用している	103 100.0%	50 48.5%	48 46.6%	5 4.9%
	使用していない	697 100.0%	205 29.4%	407 58.4%	85 12.2%

また、使用しているチェックリストについては、「法人や機関で独自に作成したチェックリスト」が80.3%、「他機関が作成したチェックリスト」が22.7%となっている。



(3) 発達障害児者のアセスメントを行う際に困っていること

発達障害児者のアセスメントを行う際に困っていることについては、「よいものがあれば使用したいが、何を使用すればよいかわからない」が40.5%、「アセスメントツールを使用したいが、実施できる職員がいない」28.6%となっている。



これをアセスメントツールの使用の有無別にみると、アセスメントツールを使用していない事業所では、「よいものがあれば使用したいが、何を使用すればよいかわからない」の割合が42.2%と、アセスメントツールを使用している事業所（33.0%）に比べ高くなっている。「アセスメントツールを使用したいが、実施できる職員がいない」については、顕著な差はみられない。

	合計	職員がアセスメントツールを使用している	よいものがあるが、何をすればよいか	その他	無回答	
全体	814 100.0%	233 28.6%	330 40.5%	38 4.7%	296 36.4%	
アセスメントツールの使用	使用している	103 100.0%	31 30.1%	34 33.0%	10 9.7%	42 40.8%
	使用していない	697 100.0%	197 28.3%	294 42.2%	26 3.7%	247 35.4%

調 査 票

平成29年1月

子育て・教育・福祉等相談支援機関／障害福祉サービス事業所の皆様

発達障害児者の支援に関する実態調査票

■本調査について

- 本調査は、北九州市内の「子育て・教育・福祉等の相談支援」及び「障害福祉サービス」における発達障害児者への支援の実施状況や課題等について把握することを目的としております。
ご回答いただく関係機関の皆様には、業務ご多忙のところ、ご負担をおかけすることになりますが、ぜひともご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。
- ご回答いただいた内容は、個人情報が出漏りするしないよう十分留意し、すべて統計的に処理いたします。本件で得た情報は調査以外の目的では使用しません。また、機関名や個人名が特定されるような公表は行いません。
- 調査結果については、平成29年春頃に本市ホームページ上で公表いたします。
- 全ての回答が終わりましたら、同封の返信用封筒にて**2月10日（金）まで**にご返送ください。なお、回答をもって本調査にご同意いただいたものといたします。
- ご回答にあたっては、**サービス提供に係る責任者の方**がご回答くださいますようお願いいたします。なお、本調査は事業所単位ではなく、**提供されるサービスごとに**回答をお願いいたします。

【問い合わせ先】

北九州市保健福祉局障害者支援課（担当：有永、鍵山）
〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号
電話：093(582)2424 FAX：093(582)2425

※本調査における発達障害児者の標記は、**発達障害者支援法に基づいております。**

（定義）

「発達障害」とは…自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの

「発達障害者」とは…発達障害がある者であって発達障害及び社会的障壁により日常生活又は社会生活に制限を受ける者

「発達障害児」とは…発達障害者のうち十八歳未満の者

※ 広汎性発達障害（PDD）はトゥレット症候群や吃音（症）なども含む幅広い概念ですが、今回の調査においては、主に自閉症・アスペルガー症候群・特定不能の広汎性発達障害を想定しています。知的な発達や言葉の発達の遅れを伴う場合から、遅れがない、あるいは遅れの目立たない場合までを広く包含し、新たな診断基準（DSM-5）における「自閉症スペクトラム障害／自閉スペクトラム症（ASD）」の概念とおおむね合致するものです。

問2 発達障害児者への支援についておたずねします。

あてはまるものに○をつけてお答えください。(過去1年間を目安にご回答ください)

設問1) あなたの事業所・相談機関では、発達障害児者への支援(相談を含む)を行っていますか。

- ① 行っている・・・設問2)へ ② 行っていない・・・副問1)へ

副問1) 設問1)で②を選択された方に、日頃の対応や今後の予定についておたずねします。

- (1) 発達障害児者への支援を行っていない理由は何ですか。
 ① 発達障害児者の利用が無かった ② 対応できる人員、ノウハウが無かった
 ③ その他()
- (2) 今後、支援を行う予定はありますか。
 ① ある ② ない(理由:) ③ 検討中
- (3) 発達障害の疑いがある人またはその保護者が来所した場合、どのように対応していますか。
 ① 他の相談窓口やサービスを紹介する ② 医療機関の受診を勧める
 ③ その人の状態により、提供できるサービス・支援の範囲内で対応
 ④ その他()

※アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

設問2) 発達障害児者に対し、どのような支援を行っていますか。(複数回答可)

- ① 相談支援 ② 遊びや体験を通じた発達支援 ③ 就学相談・学習支援
 ④ 休息や余暇活動の提供 ⑤ 作業体験や就労の訓練 ⑥ 就学や就労の継続支援
 ⑦ 他機関への紹介・サービス利用の支援 ⑧ 講演会など一般に向けた普及啓発活動
 ⑨ 当事者に対する個別相談 ⑩ 当事者活動や当事者向け学習会 ⑪ 家族に対する個別相談
 ⑫ 家族会活動や家族向け学習会 ⑬ その他()

設問3) 支援を行っている発達障害児者の障害特性についてどのように把握していますか。(複数回答可)

- ① 医療機関の診断書や関係機関の記録の確認(検査結果を含む)
 ② 面接での印象や行動の観察
 ③ 成育歴の聞き取り(ア. 本人から イ. 家族から ウ. 関係機関から)
 ④ 心理検査の実施
 ⑤ 家庭訪問による生活調査
 ⑥ 家族との情報共有【※家庭での様子に関する記録の交換や口頭での確認など】
 ⑦ 個別の教育支援計画
 ⑧ その他()
 ⑨ 特になし

調査票【発達障害】

設問4) 発達障害児者を支援するため、どのような機関と連携していますか。(複数回答可)

【※連携・・・個別相談、情報共有、コンサルテーションなど】

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|--------------------|
| ① 総合療育センター | ② かかりつけ医 (小児科、精神科など) | |
| ③ 総合療育センター地域支援室 | ④ 児童発達支援センター | |
| ⑤ 発達障害者支援センターつばさ | ⑥ 特別支援教育相談センター | |
| ⑦ 北九州障害者しごとサポートセンター | ⑧ 障害者基幹相談支援センター | |
| ⑨ 子ども総合センター | ⑩ 子ども総合センター少年支援室 | |
| ⑪ 精神保健福祉センター | ⑫ 障害福祉センター (地域リハビリテーション推進課) | |
| ⑬ 区役所の担当窓口 | ⑭ 保育所・幼稚園 | |
| ⑮ 特別支援学校 | ⑯ 特別支援学級 | ⑰ その他の学校 (小・中・高・大) |
| ⑱ 大学の教員、民間コンサルタントなど、発達障害に関する専門家 | | |
| ⑲ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー | | |
| ⑳ その他 () | | |
| ㉑ 特になし | | |

設問5) 関係機関や家族と情報を共有するために、何を活用していますか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ① 母子健康手帳 | ② 保育所児童保育要録 |
| ③ 幼稚園幼児指導要録 | ④ 個別の教育支援計画 |
| ⑤ サポートファイル「りあん」 | ⑥ 保護者の手製によるサポートブック |
| ⑦ 医療機関の作成した診断書 | ⑧ サービス等利用計画 (※障害福祉サービス) |
| ⑨ セルフプラン (※障害福祉サービス) | ⑩ 個別支援計画 (※障害福祉サービス) |
| ⑪ 認定こども園こども要録 | ⑫ その他 () |
| ⑬ 特になし | |

設問6) 発達障害児者を支援するため、職員向けにどのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)

- | |
|---------------------------------------|
| ① 発達障害者支援センターつばさの主催する各種研修への参加 |
| ② 北九州市の主催する障害者(児)ホームヘルパー等スキルアップ研修への参加 |
| ③ その他の外部研修会への参加 |
| ④ 職場内研修会の開催 |
| ⑤ 専門家による職場内コンサルテーションの実施 |
| ⑥ 他機関の視察 |
| ⑦ 他機関での実習 |
| ⑧ 専門資格の取得支援 |
| ⑨ その他 () |
| ⑩ 特になし |

設問7) 発達障害児者に対し、どのような配慮を行っていますか。(複数回答可)

- ① 絵カードや簡潔な筆記、ICTの活用など、視覚的手がかりを用いた意思交換
- ② 先の見通しを持たせるためのスケジュール提示
- ③ 環境の構造化(その場所で何を行うか、見てすぐに分かるように居室、座席などを配慮)
- ④ カームダウンスペースの確保(パニック時にすぐ移動できる、刺激の少ない場所を確保)
- ⑤ 音や肌触り、室温など感覚過敏への配慮
- ⑥ 集団参加の仕方に関する個別の配慮
- ⑦ その他 ()
- ⑧ 特になし

設問8) 発達障害児者を支援する上で、困っていることがありますか。

- ① ある・・・副問2)へ
- ② ない・・・設問9)へ



副問2) どのようなことで困っていますか。(複数回答可)

- ① 家族の理解や協力が得られない
- ② 紹介できる専門機関や適切な受入先がない
- ③ これまでの成育歴や病歴について、必要な記録が手に入らない(または、記録がない)
- ④ 発達障害の特性をどのように評価、分析したらよいかわからない
- ⑤ こだわり行動やパニック、自傷他害など、行動問題への対応の仕方がわからない
- ⑥ どのようにコミュニケーションを取ればよいかわからない
- ⑦ 本人の障害の理解や受容が進まない
- ⑧ 本人の必要な生活習慣が身につかない
- ⑨ 支援者の援助無しに楽しめる余暇活動の種類が少ない(または、余暇がない)
- ⑩ 適切な就学先が見つからない
- ⑪ 適切な就労先が見つからない(または、仕事に就いても長続きしない)
- ⑫ 家族にも発達障害の可能性のある人がおり、本人と共に支援が必要である
- ⑬ 発達障害の支援よりも、経済的困窮など、生活支援がまず必要である
- ⑭ 特性の理解や支援方針について、事業所内で意見が食い違う
- ⑮ 特性の理解や支援方針について、連携先の専門職と意見が食い違う
- ⑯ その他 ()

↓設問9)へお進みください。

調査票【発達障害】

設問9) 発達障害の特性を踏まえた専門的な支援プログラムを行っていますか。

- ① 行っている・・・副問3)へ ② 行っていない・・・設問10)へ



副問3) どのような支援プログラムや療法を活用していますか。(複数回答可)

- ① その人の認知特性に応じた環境設定(構造化)による自立行動の支援(TEACCHなど)
- ② 絵カードなどの視覚的手がかりを用いたコミュニケーション技術の習得(PECSなど)
- ③ 応用行動分析(ABA)を用いた行動問題の低減
- ④ 自己受容や自己肯定感を高めるための心理的ケア
- ⑤ 対人関係や集団行動の技術を身につけるための「ソーシャルスキルトレーニング」
- ⑥ 自立に必要な生活上の技術を身につけるための「ライフスキルトレーニング」
- ⑦ 本人への関わり方を保護者が学ぶ「ペアレントトレーニング」
- ⑧ 家族の不安・負担感に対する心理的ケア(ねぎらいや悩みの傾聴など支持的な関り)
- ⑨ 家庭における環境調整(構造化)の支援
- ⑩ 遊びや運動による刺激を通して身体の感覚を整える「感覚統合療法」
- ⑪ 特性と職業上の適正を踏まえた就労支援
- ⑫ その他()

↓設問10)へお進みください。

設問10) 発達障害児者を支援するために、今後どのようなことが必要と思いますか。(複数回答可)

- ① 早期発見・早期支援のための心理検査や診断の充実
- ② 身近なところで受診できる「かかりつけ医」の充実
- ③ 気軽に立ち寄れる相談窓口の充実
- ④ 相談窓口やサービス・支援に関する情報提供の充実
- ⑤ ライフステージに応じ一貫した支援を行うための情報共有の仕組みづくり
- ⑥ 医療・福祉・教育などの多職種が共に学び、交流する機会の充実
- ⑦ 発達障害の専門家による巡回訪問・コンサルテーションの充実
- ⑧ 専門研修の充実など人材育成の強化
- ⑨ 心理アセスメントツールなど、専門技術の普及
- ⑩ 同じ悩みを抱える家族の交流の機会の充実
- ⑪ 家族に対する心理的ケアや、家庭における環境調整など、家族支援の充実
- ⑫ 当事者の方が気軽に立ち寄れる場や、グループ活動の機会の充実
- ⑬ 就労の機会を広げるための、企業などに対する啓発や専門的就労支援の充実
- ⑭ 地域社会の理解を広げるための啓発活動の充実
- ⑮ その他()

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

アセスメントツールの使用等における実態把握のためのアンケート

貴機関で、発達障害のある対象者の状態を把握したり、支援計画を立てるために使用しているアセスメントツール（検査）やチェックリスト等についてお尋ねいたします。

1. アセスメントツールを、（ 使用している ・ 使用していない ）

使用している場合は、以下の検査の中から、通常よく使用しているものに◎、時々使用しているものに○を記入してください。

① 知能検査・発達検査

WISC（学齢期）（ ）、WAIS（成人期）（ ）、ビネー検査（ ）、K式発達検査（ ）、K-ABC（ ）、DN-CAS（ ）、遠城寺式乳幼児発達検査（ ）、ポーターページプログラム（ ）

② 適応行動（生活能力）のアセスメント

Vineland 適応行動尺度Ⅱ（ ）、S-M社会生活能力検査（ ）、ASA 旭出式社会適応スキル検査（ ）

③ 情緒と行動のアセスメント

異常行動チェックリスト日本語版 ABC-J（ ）、日本語版感覚プロフィール（ ）

④ 自閉症スペクトラムのアセスメント

M-CHAT（ ）、PARS（ ）、CARS（ ）、ADOS（ ）、AQ テスト（ ）、PEP - 3（ ）、TTAP（ ）、ADI-R（ ）

⑤ その他のアセスメント

ADHD-RS（ ）、CAARS（ ）、LDI-R（ ）、全国標準学力検査 CRT（ ）、音読検査（ ）、言語学習能力検査 ITPA（ ）、PVT - R 絵画語彙検査（ ）、ミラー幼児発達スクリーニング検査 JMAP（ ）、日本版感覚統合検査 JPAN（ ）

⑥ 上記以外に使用しているアセスメントツールがあれば、教えてください。

〔 〕

2. スキルや能力の把握のために、チェックリストを、（ 使用している ・ 使用していない ）

使用している場合は、あてはまるものに○を記入してください

① 法人や機関で独自に作成したチェックリスト（ ）

② 他機関が作成したチェックリスト（ ）

※ ②の場合、可能であれば作成者や引用元等を教えてください。

〔 〕

3. 発達障害児者のアセスメントを行う際に、貴機関で困っていることがありますか。あてはまるものに○を記入してください。

① 1. の設問にあるようなアセスメントツールを使用したいが、実施できる職員がいない（ ）

② よいものがあれば使用したいが、何を使用すればよいかわからない（ ）

③ その他（ ）

※ アセスメントシートの使用等について自由にご記入ください。

〔 〕

